

12. NPO法人や教育機関、都市住民との交流を通じて地域活性化に取り組む事例 ①



都市住民との継続した交流により就農につなげる

事例	平尾中山間地域農業推進協議会						大津市		
面積 (ha)			協定参加者 (人)	農家	法人 農業生産組織	非農家	その他 土地改良区等	協定開始	人・農地プラン 策定状況等
	田	畑							
48	48	-	118	118	0	0	0	平成12年度	-
加算措置概要	-			棚田地域	棚田ボランティア				
活用した地域資源	平尾の里山、平尾の里山・棚田守り人の会、棚田、仰木の一本桜								

地区状況・経緯

地区の48haの棚田はほ場整備がされておらず、農家は高齢化し後継者も少ない。50歳～75歳位の兼業農家を中心となっており、営農組織もないことから個々で耕作している。

中山間直接支払制度の対象地も期ごとに減少しており、隣接する下仰木には営農組合があるので移った農家もある。

本制度は獣害対策において重点的に活用しており、共同作業で獣害柵周辺の草刈り、水路の維持管理を行っている（非農家は参加していない）。

自然を愛する地域住民と都市住民による平尾の里山・棚田の保全活動を目的とする「平尾の里山・棚田守り人の会」を平成18年から実施し、都市住民との交流を図っている。

仰木の一本桜が有名で写真を撮る人や絵を描く人が多く訪れる。開発住宅地に隣接しており、住民と秋の収穫祭や、とんど焼を一緒に行う等の交流がある。

取組内容

- 棚田オーナー制度：田植え、草刈り、稲刈り、脱穀（令和元年36組 1a/組）
- 棚田ボランティア：里山下草刈り、放棄田草刈り、竹藪の伐採、ビオトープ田の整備
- 棚田の生き物観察会
- イベント：休耕田活用米作り、餅つきイベント
- 仰木活性化委員会と連携：収穫祭（準備・出店）

取組成果

- 担い手育成：長年の活動や体験を通じ、平尾地域での就農を志す都市住民が出てきた（棚田オーナーで活動をしていた2～3人が、地主から農地や機械を借りて主体的に耕作を行っている）。

課題・展望

- 課題：後継者がおらず農機具更新の時に辞める人もいるので農家が減少している。また、山裾の条件の悪いところから耕作放棄が進んでいる。
- 展望：2t車までが通ることのできる農道を整備し、獣害防止対策を引き続き実施していくことで、ボランティアや新たな人材を確保しやすい環境を整えるとともに、併せて農地の集約化も推進する。



棚田オーナー集合写真



オーナー田の草刈り



平尾の里山・棚田守り人の会との草刈り

12. NPO法人や教育機関、都市住民との交流を通じて地域活性化に取り組む事例 ②

できない所は助ける農福連携で担い手を確保、併せて賑わいも創出



事例	観音寺中山間推進協議会						栗東市		
面積 (ha)	協定参加者		協定開始	人・農地プラン策定状況等					
	田	畑		(人)	農家	法人 農業生産組織	非農家	その他 土地改良区等	
7.2	7.2	-	19	19	0	0	0	平成27年度	○
加算措置概要	-			棚田地域	-				
活用した地域資源	棚田の景観、社会福祉法人パレット・ミル								

地区状況・経緯

当地区は市の中心部から約7km、金勝アルプスに位置し、周囲を山に囲まれた中山間地域である。集落から望む棚田の景観と民家の風情ある屋並みが魅力の、静かな山間集落に21世帯が暮らしている。本制度が活用できることを市担当者から紹介され、話し合って取り組むことを決めた。

社会福祉法人パレット・ミルは集落の入口に位置し、約80名の利用者が自立を目指して働いている。パレット・ミルとの連携を始めるまでは、年2回の集落内の道路脇の草刈りと夏祭りへの出店のみのつながりだった。

地域内の棚田の最上流には清水が湧出しており、耕作しなくなった田んぼを地域外の人が借りて錦鯉の養殖を始めている。

取組内容

■ **農福連携**：協議会から社会福祉法人パレット・ミルに「人手不足で手が回らなくなってきた農地を守ってほしい」とお願いし、平成29年から8反の田んぼをお任せし、本制度の交付金を分配している。

パレット・ミルができない機械作業や農業のノウハウについては、地元住民がパレット・ミルに協力可能な曜日や作業内容を人材登録しておき、依頼があれば作業に出る仕組みを話し合って取り決めた。

毎月1回の会合「天水会」も交えながら、密に交流をとり、作業内容を確認し合って進めている。

取組成果

■ **担い手確保**：農地を守る主体を増やすことができた。

■ **地域交流**：毎月顔を合わせるようになったことで、地元の祭りの神輿の担ぎ手に参加する等、交流が深まり活性化の一助になっている。

■ **人材育成**：施設利用者は、園で草刈り機やチェーンソーの使い方や安全対策まで習得することによって、外部の草刈りの仕事を請け負うことができるようになり、大きな収入源になっている。

観音寺とパレット・ミルとの共同事業
共同者登録申込書

お名前 _____
ご住所 _____
電話番号 _____

★ ご希望の作業等（○印をお付け下さい。）

・トラクター作業	・管理畑作業
・草刈り作業（機械）	・草刈り作業（手作業）
・雑草刈り作業	・選別作業等
・その他雑作業	
・その他の作業	

★ 出たい日や曜日等
（基本的にはその都度ご都合をお知らせしますが、その前に一応お尋ねしておきたいと思っておりますので、○・△・×等をお付けください。）

	月	火	水	木	金	土	日
AM							
PM							
その他							

AM：午前よりですが、日替30分～12時
PM：午前よりですが、13時～16時30分

★ 振込先 ○銀行○支店
フリック
口座名義 _____ 口座番号 _____
以上ですが、今後変更等ありましたら、随時お申し出ください。
ご了承くださいませ。

パレット・ミルとの共同事業賛同者申込用

課題・展望

■ **展望**：高齢化により地域内の人間だけでは田んぼの維持管理が難しくなってくるため、責任をもって耕作してくれる人との連携を進めたい。

パレット・ミルと構築した関係と同じように、都市住民がグループを組むなどしてまとまった田んぼの管理主体となり、機械仕事や作業手間を地元が協力するということが展開できたらよい。行政の協力を得ながら、都市住民等とのマッチングに向けた情報発信やネットワーク構築を行っていきたい。



パレットミルの田植え機で出動



除草作業後のひと時



天水会での作業内容の確認

12. NPO法人や教育機関、都市住民との交流を通じて地域活性化に取り組む事例 ③

地域課題を解決しようと集落全体で話し合いを重ね、大学生との連携に取り組む



事例	池原集落協定							長浜市	人・農地プラン策定状況等	
	面積 (ha)	田	畑	協定参加者 (人)	農家	法人 農業生産組織	非農家	その他 土地改良区等		協定開始
	11.2	11.2	—	28	22	3	3	0	平成27年度	—
加算措置概要	—			棚田地域		棚田ボランティア				

活用した地域資源 地域資源である空き家を改修したそば道場、池原の自然と環境をまもる会

地区状況・経緯

耕作放棄地が目立つようになったと自治会総会で話が上がったため、平成19年より「多世代が共に築き、共に育む池原の自然と環境」をキャッチフレーズに「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」を活用し「池原の自然と環境をまもる会」が発足した。地域外の方の参加もあり、世代を越えた交流の場となっており、地域の活力源として成長している。

中山間地域等直接支払制度については、第4期から傾斜の基準が改訂され対象となったことを知り、取り組むこととなった。地域資源である空き家を改修したそば道場を整備し、現在男性7人女性5人から構成される有志のメンバーで、蕎麦の生産から蕎麦打ち、そば道場の運営まで一貫して行っている。そば道場はあじさいとだるま寺で有名な全長寺とも連携し合っ、年々来訪者も増え集落全体が活気付き、それに比例して蕎麦の作付け面積は増え、現在2haにもなっている。

高齢化の進行や担い手不足による不耕作地が増加する中、耕作放棄地の発生防止と農業生産活動の継続的な実施を目指して、地域が一体となって取組を進めている。

取組内容

- **棚田ボランティアとの協働活動**：県の棚田ボランティアも活用して一緒に草刈りをしている。
- **大学との連携**：「滋賀文教短期大学」との連携では、草刈りやそば道場での体験、地域の歴史の紹介などを実施してきた（『しがのふるさと支え合いプロジェクト』を活用）。

取組成果

- **棚田の保全**：棚田ボランティアや滋賀文教短期大の学生が草刈りに参加して下さることで、地域住民と地域外の方と一緒に草刈りをして棚田を守ることができた。
- **大学連携での方向性共有**：学生は地元との交流を体験でき未体験の作業の達成感を得られ、地元は若い世代の目から見た今後の池原について話し合いができるようになった。
- **そばの有効活用**：栽培したそばを使ってそば道場を運営することで、多くの方が集落を訪れるようになり、地域の賑わいやお年寄りの生きがいにつながっている。

課題・展望

- **課題**：地主不在農地と地主高齢化の農地をどう守るか（比較的大きな面積の農家は80歳を越えている）。
- **展望**：大学との連携で、新たな視点での課題の解決策が見つかることを期待している。
棚田ボランティアは、もう少しPRしたり、来て下さる方が興味を持ってそうな草刈り作業にプラスαのメニューが必要かもしれないが、現体制では難しく、継続することを最優先に細く長く取り組んでいきたい。
第5期では集落戦略プランを話し合う予定。第5期からは個人の機械更新の際に営農を続けようという気持ちになってもらうためにも大型トラクターを共同購入し、作業の共同化を進める予定。



棚田ボランティアミーティング



棚田ボランティア



大学生の蕎麦打ち体験・地域の歴史を学ぶ